

学校番号	1366718
学校名	ライシャワー学園

1. 活動テーマ

【テーマ】 3歳児と5歳児 … 『園庭遊び～遊びを広げ、自然とかかわろう～』

【テーマ設定理由】

2年目となる「とうきょうすくわくプログラム」では、子どもの外遊びでの姿に着目してテーマを検討した。まず子どもの実態として、聴覚障害の発見が早まり、早期の教育開始および補聴機器の進歩により、ここ10年ほどは年々加速度的にきこえやことばの発達が早くなっている。以前は一人遊びや大人とのかかわりが中心となりがちだった子が多かったが、現在は子ども同士で声を掛け合い、かかわって集団遊びを展開するようになってきている。例えば、鬼ごっこも子ども同士で自然に始まり、大人が介入しなくても進められている。「もっと面白い鬼ごっこはあるかな」「どんなきまりにしようかな」などと考え合う様子もある。

また、自然を通して発見、気づきがうまれる瞬間もある。「ありの巣をたどってみよう」「バッタはどこにいるか」など、実際に触れたり捕まえたりしながら、子どもたちなりに興味を広げている。

そこで、今年度は子どもが遊びながら周囲の自然とかかわることを通し、気づきや発見が起こったり、好奇心を抱いたりするきっかけになる環境を整えたうえで、子どもたちがもっといろいろな遊び方をしたいと考えたり、昆虫をはじめとする自然への興味を深めたいと考えた。しかし、現在の本校の園庭は、50年以上前からほぼ変わっておらず、自然は多いが遊びのきっかけとなるような場が少なく、多様さにやや欠けている。特に少人数の特別支援学校である本校では、遊びがパターン化し、新たな展開が生み出しにくい状況があるため、園庭の改修は必要な要素と考えた。

それらの実現に向け、今回は園庭の改修を行うこととした。具体的には、高低差が生まれるような築山を作ること、木を植えること、虫がたくさん集まる虫宿の設置である。築山ができることで「どんな遊び方ができるか」意見をかわしあったり、「どんな虫がくるかな」「虫宿で虫はどんなことをしているかな」など、日常的にさらに興味関心を深めたりしてほしいと願い、テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

① 6/19(木) 教職員向け研修

「自然を取り入れた保育の重要性」を学び、理想の園庭について話し合った。

② 7/7(月) 子ども向けワークショップ（年長児対象）

「こんな園庭がいいな」というアイデアを出し合った。手がかりとなる写真を使い、遊びたいイメージを膨らませながら話し合った。特に築山に魅力を感じたようで、築山にのぼりたい、築山をすべりたい、水を流したい、という願いが多かった。

③ 9/11(木)、9/12(金) 園庭づくりワークショップ ～築山を作り、木を植えよう～

②でのアイデアをもとに決定した築山づくりと植樹を幼児が体験した。土を運び、山にする作業を行ったが、固くするために足で踏んだり、シャベルで固めたりする姿から、土の感触を味わっていることを見取れた。

④ 10/3(金) 園庭づくりワークショップ ～虫宿を置こう～

「どこに虫宿を置くと虫が来るか」「どんな虫に来てほしいか」相談しながら虫宿を置いた。

- ⑤ 10月上旬～2月 毎日の昼休みやクラスでの園庭遊びの時間に、子どもたちが特に築山でどんな遊びを生み出し、展開しようとするか、また生き物(主に虫)に対し、意欲的に気持ちを向けたり活動したりしているかを教員全員で見たり記録をして、その様子を振り返り、共有した。そこで共有した子どもの姿から、新たな活動の展開ができないか、一人ひとりの子どもの興味関心を深めるためのかかわりを心にとめ、また日々のかかわりにいかした。
- ⑥ 11月下旬 年長児クラスにおいて、変化した園庭で遊んだり気づいたりしたことについて話し合った。話し合いを通し、やはり②で抱いた願いを実現したことやさらに発展させたい気持ちを共有した。
- ⑦ 2月～3月
改めて活動を整理し、子どもたちにとって園庭の自然、特に築山を通し土の性質を探求する姿を映像や記録を通し教員間でふり返り、まとめとした。

3. 探究活動の実践

【活動の内容】

〈活動のために準備した素材や道具、環境の設定〉

- ・園庭の遊びの手がかりとなる写真
- ・築山(土)
- ・虫宿
- ・落ち葉
- ・木の枝
- ・木の実
- ・木
- ・虫かご
- ・虫取り網
- ・シャベル

〈活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり〉(番号は活動スケジュールと照合)

②夢の園庭について、アイデアを出す話し合い遊びの写真を手掛かりに各自がやってみたい遊びを選び、話し合った。

C1:「迷路がほしいな。」

C2:「外で水の道を作ってジャーっと流したい」

C3:「僕も水の道がいい」

C4:「穴をほりたい」

C5:「泥遊びしたい」

C6:「山の上に登りたい」

C7:「小さいものを虫メガネで見たい」

T:「みんなの気持ちはわかったよ。このお話を聴いて、設計図を描いてくるからね」

C1:「また来てくれるの?工事にくるの?」

③園庭で築山を作る一部、運ばれてきた土の山の上に立っている年少児を見て

C1:「お山できたの?」

T:「まだ途中だよ。これからみんなでもっと大きなお山にしていくよ。」

C2:土の塊を手でほぐしている

C4:シャベルの背で、トントントン土をたたいて固めようとしている

C3:「(シャベルを持って)こっちの(立って掘った)方が早そうだな。」



⑥50日経過後年長クラスでの話し合い

T:「築山、作ってどうかな？」

C1:「大きいね。土、固くなってきたね」

C2:「固くなって面白いと思ってる」

C3:「お水入れたら、すべっちゃうよ」

C4:「ありさんの穴(巣)があったよ」

C5:「(写真を指さして)(秋だから)葉っぱがいっぱい周りの落ちてきているよ」

T:「Cさんは、てっぺんでの押し合いっこは怖いんだね。他にどんな遊びができるかな？」

C1:「お友達とお山の滑り台やりたい」

C3:「滑りたい。土にお水入れたら、シューって滑るよ。」

C4:「お山の滑り台やりたい。滑り台やるは、葉っぱ、いらないよ。」

⑤水をかけた築山で滑る遊びをしているとき

T:「水をかけるよ」

C4:「お山、色ちがう。」

T:「よーしっ、滑ってみよう」

C5:「あはははは。」

C1:「わーっ。いいね。もう一回。」

C6:「葉っぱをまいてみようよ」

(子ども達、葉っぱを築山にまき始める)

(滑ってはまた落ち葉をまき、滑ってはまく活動を続ける)

C7:「もう少しよく滑るといいんだけどなあ。水をいっぱい出してみたいな。」



4. 振り返り

〈振り返りによって得た教師の気づき〉

- ・築山を作る作業に子どもたちも参加した。自分たちの園庭に新しいものができるという期待をもって、どの子どもも意欲的にシャベルを持って運ばれてきた土に群がりながら、築山作りに参加した。教師は土との出会いを大切にしようと思い、土に対してどのように子どもたちが向き合うのか見守った。最初は柔らかかった土が圧迫することにより固くなることに気づき、子どもたちはそれぞれシャベルを手にしたり、自分が土の上に乗ったりすることで土を固めようとしていた。また、より高く盛り立てようと、上へ上へ土を集めようとしていたり、道具を工夫して使ったりしていた。また、積極的にリヤカーで土をトラックから運びこんでいた。「どうしたら高い築山ができるか」「どうしたら固められるか」という目標に向かい、土の性質を全身で感じる取り組みだった。
- ・一度にのぼれるのは2～3名ほどの大きさの築山だが、子ども達は自然と外遊びの際に高低や上り下りを楽しむ日が続いた。教師は子ども達がどんな遊びをするのかを観察し見守ることを大切にしていた。男の子が多いクラスということもあり、「築山てっぺんでの押し相撲」を楽しむことが多かった。不安定な足場だからこそその偶然性を体験しながら、自分たちで工夫して遊びを作り出そうとしていた。
- ・築山が身近になり、子ども達の遊び方をより広げられたらという教師の願いのもと、子ども達と「築山」について思うことを伝え合う時間を設けた。子ども達から「固くなった」「水にぬらすと滑る」等の

土の性質についての気付きや、「落ち葉やありの存在」を伝える季節や時間の移り変わりに対する気付き等が出てきた。教師の予想以上に様々なことに気付き、伝えてくる様子に、子どもたちなりに身体を通して築山や土の性質を感じていることが分かった。また、実は押し相撲が怖かったというCさんの思いもクラスみんなにとって初耳であった。もともと、滑り台が大好きな子ども達ならではの願いのもと、高低差と土と水の性質を利用した「築山すべり」をすることとなった。

- ・教師は、築山に水をまいた程度では、滑るときに子ども達が思うほどのスピードが出ないのではないかと予想していた。シートを敷いた上で水をかけないとあまり滑らないのではないかと考えていた。まずは子どもたちの考えを試すことを大切にしたい。“洋服が汚れることを避ける”という面では、子ども達の方から「プラスチックの敷き物を敷いてすべりたい」という声があがった。よって、じかに滑るのではなく、プラスチックの敷き物を敷いて滑ることとなった。日常的に園庭内にある大型すべり台で敷物を敷いてすべっているため、その経験をもとに考えたすべり方だった。
- ・敷物を敷いても思っていたほど築山が滑らないことに気付き始めた子ども達は、スピードが上がることを期待して、自然と落ち葉を築山に振りかけてから滑ろうと試みていた。また、流す水の量にの工夫を提案する発言があった。子どもたちの中から落ち葉や水など試行錯誤しながらよりすべる工夫が見られた。
- ・築山が園庭にできたことで、遊びの幅が今までよりも広がった。築山での押し相撲や築山滑り以外に、子どもたちは、「高おに」や「リヤカーを持って築山を乗り越える」「ジャンプして飛び降りる」等、築山の高低を生かして遊ぶようになった。また、けいどろの時には築山を警察署長の陣地と見立て、遊ぶこともあった。「穴を掘る遊び」「水を流す遊びや雨の後の様子」を経験する中で、自然と「圧縮すると固くなる」「水を流すとすべる」という土の性質にも気づいていた。今まで園庭になかった「土」が、いかに子どもにとって魅力的なものであるのかが分かった。
- ・環境の設定により、子どもたちは自然から多くのことを学ぶ。今後も、存分に遊びこむ経験を大切にしながら、子どもたちの遊びの世界を広げ、探究する意欲を育てていきたい。